

小学校 総合的な学習の時間

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

目標は、大きく分けて二つの要素で構成されている。一つは、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するという、総合的な学習の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方である。もう一つは、総合的な学習の時間を通して育成することを目指す資質・能力であり、他教科等と同様に、(1)では総合的な学習の時間において育成を目指す「知識及び技能」を、(2)では「思考力、判断力、表現力等」を、(3)では「学びに向かう力、人間性等」を示している。

<総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力>

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念） ○課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 ○探究的な学習のよさの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学習を通して身に付ける課題を見だし解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度を育てる。 ○協働的な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。など
<p>知識は、教科書や資料集に整然と整理されているものを取り込んで獲得するものではなく、探究の過程を通して、自分自身で取捨・選択し、整理し、既にもっている知識や体験と結び付けながら、構造化され、身に付けていくものです。</p>	<p>身に付けた「知識及び技能」の中から、当面する課題の解決に必要なものを選択し、状況に応じて適用したり、複数の「知識及び技能」を組み合わせてたりして、適切に活用できるようになっていくことと考えることができます。</p>	<p>よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重すること、自ら取り組んだり異なる他者と力を合わせたりすること、社会に寄与し貢献することなどの適正かつ好ましい態度として「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を活用・発揮しようとする考え方ができます。</p>



これら育成を目指す資質・能力の三つの柱は、個別に育成されるものではなく、探究的な学習において、よりよい課題の解決に取り組む中で、相互に関わり合いながら高められていくものとして捉えておく必要があります。

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- 探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成することとした。(改訂の基本的な考え方)
- 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、総合的な学習の時間の目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定することを示した。(目標の改善)
- 各学校は、総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定するよう改善した。(学習内容、学習指導の改善・充実)
- 教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するため、課題を探究する中で、

協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動、コンピュータ等を活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動が行われるように示した。(学習内容、学習指導の改善・充実)

- プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付ける学習活動を行う場合には、探究的な学習の過程に適切に位置付くようにすることを示した。(学習内容、学習指導の改善・充実)

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- 年間や、単元(題材)など内容のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。
- 児童や学校、地域の実態等に応じて、児童が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童の興味・関心に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。

主体的な学び	学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び ※キーワード:「課題設定」と「振り返り」
対話的な学び	他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び ※例えば、「考えるための技法」を意識的に使っていくことが、対話的な学びを確実に実現していくものと期待できる。 「考えるための技法」→考える際に必要になる情報の処理方法を、例えば「比較する」、「分類する」、「関連付ける」のように具体化し、技法として整理したもの
「深い学び」の視点に関して、総合的な学習の時間の学びの深まりの鍵となるもの →「見方・考え方」	

- 総合的な学習の時間における探究的な学習の過程が充実することにより、各教科で育成された資質・能力は繰り返し活用・発揮される。そのことによって、生きて働く知識及び技能として習得され、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等が育成され、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養につながるのである。

総合的な学習の時間の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「探究的な見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが大切です。

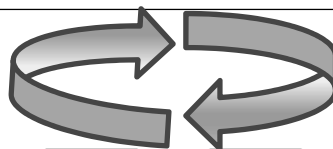


③見方・考え方について

<探究的な見方・考え方>

- 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること
(総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方)

各教科等における見方・考え方を総合的な学習の時間で総合的に活用



総合的な学習の時間において各教科の見方・考え方を使うことで、多様な文脈で使えるようになるなど、各教科等の「深い学び」を実現



総合的な学習の時間の中で、児童が探究的な見方・考え方を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組むことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつながります。そして、学校教育のみならず、大人になった後に、実社会・実生活の中でも重要な役割を果たしていくのです。

- 総合的な学習の時間において、各教科等における見方・考え方を総合的に活用するということは、社会で生きて働く資質・能力を育成する上で、教科等の学習と教科等横断的な学習を往還することが重要であることを意味している。系統的に構造化された内容を、それぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせて学ぶ教科等の学習と、総合的な学習の時間において、各教科等で育成された見方・考え方を、実社会・実生活における問題において総合的に活用する教科等横断的な学習の両方が重要であるということの意味している。このような教科等の学習と教科等横断的な学習の両方が示されていることは我が国の教育課程の大きな特色であり、今回の改訂では改めてその趣旨を明らかにしている。

④ 移行期間中の教育課程

○平成30年度から新学習指導要領のもと実施。
(第3の2(9)の後段部分を除く
…プログラミング教育)

○小学校外国語活動においては、各学校が現行の教育課程に更に15単位時間の授業時数を加えて確保することが困難な場合など、外国語活動の授業時数の授業の実施のために特に必要がある場合には、総合的な学習の時間及び総授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができることとした。ただし、移行期間に限り講じる措置である。

⑤ 各学校において定める目標及び内容

○目標

平成30年度から実施

・各学校においては、第1の(国の)目標を踏まえつつ、各目標の要素のいずれかを具体化したり、重点化したり、別の要素を付け加えたりして目標を設定する。
・各学校において定める目標は、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。

○内容

各学校において定める

内容においては、「目標を実現するにふさわしい探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」の二つを定める。目標の実現に向けて、児童が「何について学ぶか」を表したものが探究課題であり、各探究課題との関わりを通して、具体的に「どのようなことができるようになるか」を明らかにしたものが具体的な資質・能力という関係になる。

<目標と内容と学習活動の関係>



<各学校で設定する探究課題の例>

三つの課題	探究課題の例
横断的・総合的な課題 (現代的な諸課題)	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観(国際理解)
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化(情報)
	身近な自然環境とそこに起きている環境問題(環境)
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々(福祉)
	毎日の健康な生活とストレスのある社会(健康)
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題(資源エネルギー)
	安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々(安全)
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者(食)
	科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化(科学技術)
	など
地域や学校の特色に応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織(町づくり)
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々(伝統文化)
	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会(地域経済)
	防災のための安全な町づくりとその取組(防災)
など	
児童の興味・関心に基づく課題	実社会で働く人々の姿と自己の将来(キャリア)
	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展(ものづくり)
	生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ(生命)
など	

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

<総合的な学習の時間における「主体的・対話的で深い学び」の視点>

○学習過程を探究的にすること

総合的な学習の時間における学習では、問題解決的な活動が右図のように発展的に繰り返されていく。これが探究的な学習であり、物事の本質を探ってみ極めようとする一連の知的営みのことである。

課題の設定：体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

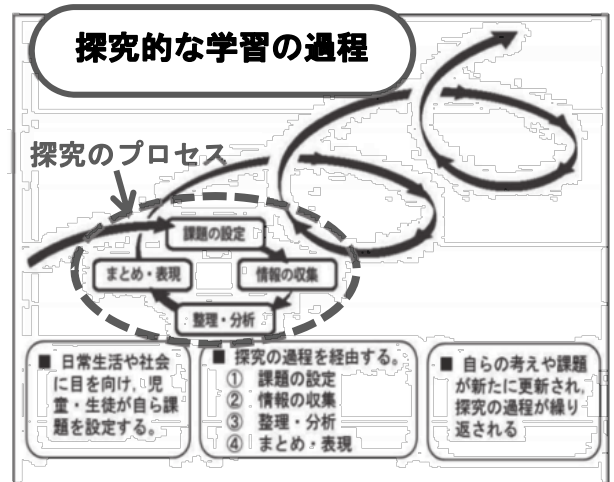
情報の収集：必要な情報を取り出したり収集したりする

整理・分析：収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

まとめ・表現：気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

○他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

- ・多様な情報を活用して協働的に学ぶ
- ・異なる視点から考え協働的に学ぶ
- ・力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ
- ・主体的かつ協働的に学ぶ





学習過程を探究的にすること、協働的に取り組む学習活動を行うことが、子どもの学習の質を高め、探究的な学習を実現することにつながります。そして、これらの前提として、何のために学ぶのか、どのように学ぶのかということ子ども自身が考え、主体的に学ぶ学習が基盤にあるということが重要です。

(1) 単元名 復活させよう！地域が愛した『大久保つつじ』（第4学年）

(2) 単元目標

江戸時代に栄えた「大久保つつじ」を地域の人に広めようとする活動を通して、「大久保つつじ」を取り巻く当時の様子や「大久保つつじ」を未来のまちづくりに役立てようとする地域の取組を知り、地域のためにすすんで活動しようとする。

(3) 単元計画（全35時間）

【探究課題】地域や学校の特色に応じた課題（町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織<町づくり>）

主な学習活動	指導のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ○なぜ、校章や新宿区の花が「つつじ」なのかを探り、「大久保つつじ」への関心を高める。(5) ○地域の人がどのくらい「大久保つつじ」を知っているのかを調査する。(6) ○「大久保つつじ」を地域の人に広める方法を考える。(6) <p style="text-align: right;">(本時 2 / 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの考えや提案方法をよりよくするために、地域の人へのアドバイスを得たり協力を依頼したりする。(4) ○実際に考えたことを実行し「大久保つつじ」を広める。(12) ○活動を振り返りレポートにまとめる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つつじ」と大久保との関係を知るために、魅力あるまちづくりを推進している地域の方との出会いの場を設定する。 ・調査過程で生まれる問題を調べたり、分析したりして、友達と協働して解決していくようにする。 ・考えたことを地域に伝えたり地域の人と意見交換したりしながら、活動する場を設定する。 <p>・活動したことやそこでの思考を確かな認識とするために、言語により振り返りまとめる活動を行う。</p>

(4) 本時目標 地域でのアンケート調査の結果をマップに整理することで、エリアごとの特徴を捉え、その実態に応じた広報活動を考えることができる。

本事例は、「大久保つつじ」が地域でどれくらい知られているのかに疑問をもったことから行った地域住民への1000人分のアンケート調査の結果を基に、地域の実態を把握し、その実態に応じた方法を考える場面です。エリアごとの分布の特徴を捉えるためには、他のエリアと比較したり、他の情報と関連付けたりなどの考える力が求められます。そうした思考力を育成するためにも、地域の拡大マップにエリアごとの調査結果を落とし込み、話し合う活動を行っています。



(5) 授業展開例

学習活動	指導上の留意点
1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	・学習意欲を喚起するために、伝えたい対象やまちづくりへの思いを確認する。
アンケート結果をもとに、「大久保つつじ」を広めるための方法を考えよう	
2 アンケート調査の結果をマップに整理する。 ・よく知っている：緑シール ・知っている：黄シール ・ほとんど知らない：ピンクシール ・知らない：赤シール	・アンケート調査の結果を色別シールを使って地図上に整理することで、エリアごとの分布を捉えやすくする。
3 マップに整理したアンケート結果から、エリアごとの特徴を話し合う。 ・ほとんどの人が大久保つつじを知らない。 ・百人町周辺は知っている人がいる。江戸時代大久保つつじを栽培していた鉄砲隊が住んでいたからだろうか。 ・大久保通り周辺には外国の人が多く、ほとんど知らない。	<p>【10の視点】 ④思考の整理</p> <p>マップによる整理は、膨大なデータを可視化し捉えやすくします。他のエリアと比較したり、その土地の歴史的な背景と関連付けたりして特徴の原因等も考えていくようにすることが大切です。</p>
4 地域の実態や特徴を踏まえ、「大久保つつじ」を広めるための方法を考える。 ・外国の人に知ってもらうには、いろいろな国の言葉で書く必要がある。	・マップの整理で明らかになったことや前時までの学びとも関連付けながら話し合わせる。
<p>【10の視点】 ⑧学習を振り返る活動の設定</p> <p>振り返りは、自らの学びを意味付けたり価値付けたりして自覚し、他者と共有したりしていくことにつながります。特に、文字言語にまとめることは、学習活動を振り返り、体験したものと収集した情報や既得の知識とを関連させ、自分の考えとして整理する深い理解につながっていきます。</p>	
5 振り返りをし、本時のまとめをする	・「活動の振り返り」「よさ」「次への課題」の観点に沿って書かせるようにする。



体験したことや収集した情報を言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究的な学習の過程において特に大切にしたいことです。そのためには、分析とは何をするのか具体的なイメージをもつことが必要となります。例えば、集めた情報を思考ツールを使って共通点と相違点に分けて分類したり、時間軸に沿って並べたり、原因と結果に分けたり、変化や結果を予測したり、現実社会の事象に当てはめたり、多面的・多角的に分析したりすることなどが考えられます。

【参考】言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】（小学校編：H23.10 文部科学省）

中学校 総合的な学習の時間

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

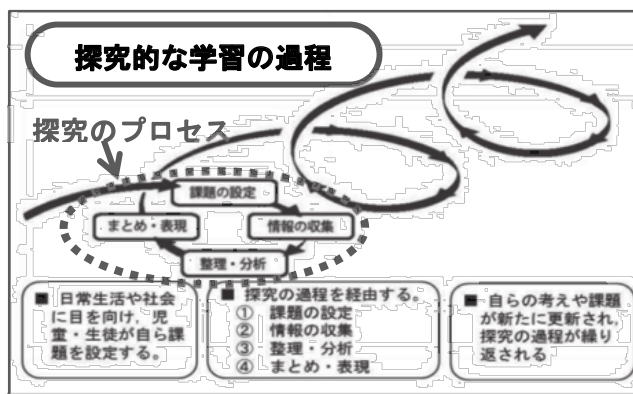
第1の目標は、大きく分けて二つの要素で構成されている。一つは、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するという、総合的な学習の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方である。もう一つは、(1)、(2)、(3)として示している、総合的な学習の時間を通して育成することを目指す資質・能力である。育成することを目指す資質・能力は、他教科と同様に、(1)では総合的な学習の時間において育成を目指す「知識及び技能」を、(2)では「思考力、判断力、表現力等」を、(3)では「学びに向かう力、人間性等」を示している。

〈知識及び技能〉

- 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念）
- 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能
- 探究的な学習のよさの理解

〈思考力、判断力、表現力等〉

- 探究的な学習を通して身に付ける課題を見だし解決する力



探究の過程における思考力、判断力、表現力等の深まり（例）

①課題の設定	②情報の収集	③情報の整理・分析	④まとめ・表現
より複雑な問題状況 確かな見通し、仮説	より効率的・効果的な手段 多様な方法からの選択	より深い分析、 確かな根拠付け	より論理的で効果的な表現 内省の深まり
例) ↑ ■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる など	例) ↑ ■情報収集の手段を選択する ■必要な情報を収集し、蓄積する など	例) ↑ ■問題状況における事実や関係を把握し、理解する ■多様な情報にある特徴を見付ける ■事象を比較したり関連付けたりして課題解決に向けて考える など	例) ↑ ■相手や目的に応じてわかりやすくまとめ表現する ■学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする など

〈学びに向かう力、人間性等〉

- 主体的な探究活動の経験を自己の成長と結び付け、次の課題へ積極的に取り組もうとする態度を育てる。
- 協同的（協働的）な探究活動の経験を社会の形成者としての自覚へとつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。 など

学びに向かう力、人間性等			
	例) 自己理解・他者理解	例) 主体性・協働性	例) 将来展望・社会参画
自分自身に関すること	探究的な活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする	自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする	探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする
他者や社会との関わりに関すること	探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする	自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする	探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- 探究的な学習の過程を一層重視すること。
- 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成すること。
- 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、総合的な学習の時間の目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定することを明示。

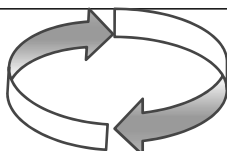
②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- 年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通すこと。
- 生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。

③見方・考え方について

＜探究的な見方・考え方＞
各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること

各教科等における見方・考え方を総合的な学習の時間で総合的・統合的に活用



総合的な学習の時間において各教科の見方・考え方を使うことで、多様な文脈で使えるようになるなど、各教科等の「深い学び」を実現

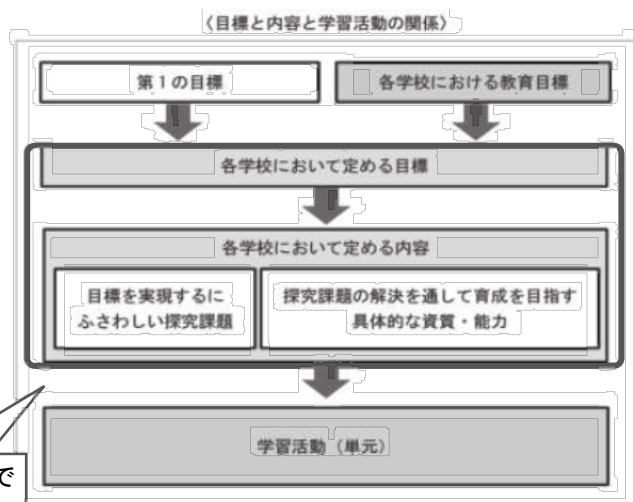


④移行措置について

- 平成30年度から**新中学校学習指導要領**のもと実施。
- 各学校において目標及び内容を定めること。その際、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。
- 探究課題とは、生徒が探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したものであり、四つの課題（次ページ）をさらに具体化し設定。



ここを各学校で設定しましょう。



<各学校で設定する探究課題の例>

横断的・総合的な課題 (現代的な諸課題)	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観 (国際理解)
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化 (情報)
	地域の自然環境とそこに起きている環境問題 (環境)
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々 (福祉)
	毎日の健康な生活とストレスのある社会 (健康)
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題 (資源エネルギー)
	安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々 (安全)
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者 (食)
	科学技術の進歩と社会生活の変化 (科学技術)
	など
地域や学校の特色に応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 (町づくり)
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 (伝統文化)
	商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会 (地域経済)
	防災のための安全な町づくりとその取組 (防災)
	など
生徒の興味・関心に基づく課題	ものづくりの面白さや工夫と生活の発展 (ものづくり)
	生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ (生命)
	など
職業や自己の将来に関する課題	職業の選択と社会への貢献 (職業)
	働くことの意味や働く人の夢や願い (勤労)
	など

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元名 誰にとっても安全・安心・快適な学校を目指して (第1学年)
～地域の施設や企業に学ぶ～

(2) 単元目標

地域の施設や企業の理念・実践をよりよい学校づくりに生かす学習活動を通して、誰にとっても安全・安心・快適とはどういうことかを考え、実践につなげる。

(3) 単元計画

【探究課題】 安心・安全・快適な町づくりへの地域・企業の取組と支援する人々 (安全)

課題設定	○単元の目標と学習の流れを知り、学習の見通しをもつ。
	○グループに分かれて自分たちの体験や見聞をもとに地域の施設や企業における「安全・安心・快適」のイメージをウェビングで広げる。→自分たちだけではなく、「誰にとっても」の視点をもつ。
情報収集	○前時のイメージと自分たちの学校の現状や課題とを比較し、テーマを決めて、「安全・安心・快適な学校」に向けての課題探究計画を立てる。
	○アンケートやインタビューで学級や学校の実態を調査する。
情報収集	○施設や企業の取組・基本理念等について、ゲストティーチャーを招いて話を聞く。
	○「安全・安心・快適」に関する体験や思いを、自分の身の回りの人たちにインタビューする。
情報収集	○グループで計画を立て、施設や企業で、見学・インタビュー・疑似体験などを行う。
	○グループで計画を立て、施設や企業で、見学・インタビュー・疑似体験などを行う。
情報収集	○グループで計画を立て、施設や企業で、見学・インタビュー・疑似体験などを行う。
	○グループで計画を立て、施設や企業で、見学・インタビュー・疑似体験などを行う。

【10の視点】

①魅力的な課題・教材の提示

最終的に自分たちの学校生活をよりよくするという目的を持ち、地域の施設や企業の取組・工夫を探究していくことで、課題意識を高めることができます。

【10の視点】

②体験的な学習

普段見慣れている地域の施設や企業を、「自分」という視点からだけではなく、様々な利用者の視点に立って見つめたり、疑似体験をしたりすることで、課題意識を高めることができます。

整理・分析	○調査活動で気付いたこと、感じたことをワークシートにまとめ、ベン図で共有する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ④思考の整理</p> <p>集まった情報を整理・分析する時に、ベン図を用いて要素で整理すると、共通点や相違点を明らかにすることができます。</p> </div> <p>○ポスターセッション（1回目）で各グループの情報を共有する。 →調査活動についてだけでなく、「安全・安心・快適な学校」へのヒントも出し合う。</p> <p>○収集した情報をもとに、誰にとっても「安全・安心・快適な学校」をつくるために自分たちができることを話し合い、座標軸を用いて整理し、提案の準備をする。</p>
表現・まとめ	○ポスターセッション（2回目）で各グループの提案を発表し合う。 【本時】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑧学習をふり返る活動の設定</p> <p>まとめの後にも学校生活を振り返ったり、安全・安心・快適の意味を改めて考えることで、新たな探究課題や学びにつなげることができます。</p> </div> <p>○提案の実行に向けて、生徒会執行部や委員会、PTAや地域への働きかけを行う。</p> <p>○自己評価シートで活動を振り返る。</p>

(4) **本時目標** 地域から学んだ理念や体験を生かしながら、誰にとっても「安全・安心・快適な学校」をつくるために、自分たちができることについて提案し合う。

(5) **授業展開例**

学習活動	指導上の留意点
1 前時までを振り返り、本時の学習内容の見通しをもつ。	・自分だけでなく、「誰にとっても」の視点が必要であることを確認しつつ、実践できることを見つけたいと伝える。
2 ポスターセッションで自分たちの提案を発表する。また、各グループの発表を聞き、思いや意見を付箋で返す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>誰にとっても「安全・安心・快適な学校」をつくるために自分たちができることについて提案し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・班員全員が最低1回は発表を担当する。 ・聞く側では、全員がすべての班を回るよう確認する。 ・必要度と実現度を座標軸で整理しながら聞くように伝える。
3 採点表を参考に、自分が選ぶ提案ナンバー1を発表し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実</p> <p>同じ単元の中にポスターセッションを2回設定することで、筋道を立てて説明したり自分の思いを表現したりする機会を確保しています。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず理由や意見を添えて発表し、改善案やアドバイスも加えるよう促す。 ・それぞれが考える「提案ナンバー1」は違ってよいことを確認する。 ・心に残った提案があれば、一つだけでなくもよいことを確認する。 ・選ばれた側の班の代表者も感想を伝えるよう促す。
4 本時のまとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【10の視点】 ⑧学習をふり返る活動の設定</p> <p>様々な発表から「必要度」「実現度」の別の視点に気付くことができるので、新たな課題へと発展させることができます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本單元における2回目のポスターセッションの価値付けをする。 ・人によって「必要度」が違うことを確認し、「誰にとっても安全・安心・快適」とはどういうことかを改めて考えるよう促す。